

2022年度 自己評価報告書

評価期間

自：2022年4月1日

至：2023年3月31日

2023年4月8日(土)

専門学校日本デザイナー芸術学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成「専修学校における学校評価ガイドライン」及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成「第三者評価システムの概要Ver4.0」に準拠し実施した。

自己評価委員会

委員長：成 光雄（校長）

委 員：山内 雄司（教務長）

委 員：下雅意 善規（教務）

委 員：石川 優子（教務）

委 員：小原 桃子（教務）

委 員：鈴木 ルリ（教務）

事務局：大本 周平（事務長）

事務局：内田 詩織（学務）

事務局：吉井 啓晃（学務）

事務局：清水 理沙子（学務）

事務局：中村 亜弓（総務）

目 次

学校の現況	P 3
1. 学校の教育目標	P 4
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 …	P 4
3. 点検項目の評価結果	P 4～9
(1) 教育理念	P 4
(2) 学校運営	P 5
(3) 教育活動	P 5・6
(4) 教育成果	P 6
(5) 学生支援	P 7
(6) 施設整備	P 7
(7) 学生募集	P 8
(8) 財務	P 8
(9) 法令順守	P 8・9
(10) 社会貢献	P 9
(11) 国際交流	P 9
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 10
(1) 教育目標.....	P 10
(2) 財務評価.....	P 10
(3) 一般的評価.....	P 10

学校の現況

(1) 学校名

学校法人敬道学園 専門学校日本デザイナー芸術学院

(2) 所在地

愛知県名古屋市中村区黄金通1-16

(3) 沿革

1967：日本デザイナー学院名古屋校創立 学院長 山名文夫

1979：専門学校日本デザイナー学院認可 校長 狭間寿郎就任

1981：校長 横田真利就任

1984：校長 岡本滋夫就任

1987：学院創立20周年記念「高校生デザイン・写真コンペティション」

(現高校生グランプリ) 開催

1990：海外研修旅行(パリ・ニューヨーク) 開始

1991：学校法人名古屋呉学園設立 中村区役所校舎移転 校長 中井幸一就任

1994：専門士推薦

1997：創立30周年記念 第1回OB展開催(国際デザインセンター 4階ギャラリー)

1998：専門学校日本デザイナー芸術学院に校名変更

2000：OB2000「DIGITAL WORLD」開催

2002：創立35周年記念記念行事開催(国際デザインセンター 3階ホール・4階ギャラリー)

中国四川大学芸術学部姉妹校提

2003：世界グラフィックデザイン会議 ICOGRADA出展

2007：創立40周年記念「OB40展」開催 校長 田邊雅一就任

2011：校長 本山星求就任

姉妹校・専門学校日本マンガ芸術学院創立 校長 成 光雄就任

2014：専門学校日本デザイナー芸術学院校長 成 光雄就任(両校兼務)

2015：学校法人敬道学園に学園名称変更

2018：保育士養成スクールこども芸術学院創立

(豊岡短期大学通信教育部こども学科の学習サポート校)

2020：学科再編によりこども芸術学科(保育コース)を設置

ビジュアルデザイン学科に国際メディアデザインコースを新設

1. 学校の教育目的

教育理念（学校法人敬道学園）

本学は、教育基本法および学校教育法に従い、産業・経済・生活文化に携わる有能なクリエイターの育成および、保育・生活文化・福祉に携わる良識と技能を備えた保育者を育成することを目的とする。また、優れた専門性を持ち、時代のニーズを的確に反映できる実力と人間性を兼ね備えた人材の育成をおこなう。

本学で学ぶ学生たちに活力ある教育、学習環境を提供し、表現・創作活動の支援体制作りをおこなう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 2021年度からの「myPC学習」環境の整備、PC専用教室の撤去、DX環境の改善点など
- 2) 引き続きコロナ禍に対応するための教務運営と学生対応
- 3) こども芸術学科における「指定保育士養成施設」の本申請

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
1-1	教育理念・教育目標は示されているか	4	3	2	1
1-2	学校の特色は示されているか	4	3	2	1
1-3	学校の将来構想は示されているか	4	3	2	1
1-4	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	4	3	2	1
1-5	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①課題

コロナ禍期間から通常運営へのスムーズな移行（学院運営、カリキュラム計画）。

こども芸術学科における「指定保育士養成施設」の指定（認定）を目指す。

②今後の改善方策

施設や設備のIT化やDX（デジタルトランスフォーメーション）を引き続き推進していく。

実情に合わせた教室改装と設備機器の刷新。

③特記事項

コロナ禍が終焉、または落ち着きを見せた後の正常な学校運営や学生募集活動を活発化させていくことが2022年度から2023年度へかけての課題となる。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
2-1	運営方針は定められているか	④	3	2	1
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
2-3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	④	3	2	1
2-4	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
2-5	意思決定システムは確立されているか	④	3	2	1
2-6	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
2-7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
2-8	情報システム等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

①課題

学院の特徴や運営指針について、引き続き告知していく。

②今後の改善方策

学校運営について、引き続き情報公開を推進していく。

③特記事項

「働き方改革」を意識した労働環境構築を継続し、業務の効率化を推進していく。

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
3-1	教育理念等に沿った教育課程も編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
3-2	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	④	3	2	1
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているかに反映されているか	4	③	2	1
3-5	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	4	③	2	1
3-6	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
3-7	成績評価の基準は明確になっているか	4	③	2	1
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
3-9	授業評価は実施されているか	④	3	2	1
3-10	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	④	3	2	1
3-11	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4	③	2	1
3-12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

卒業後のビジョンを明確にしたキャリア教育、社会人教育を推し進める。

②今後の改善方策

- ・教育の柔軟性と多様性を研究し、ニーズに合わせた先進性を取り入れていく。
- ・DXを学生教育の利便性のみならず進路の拡張性、可能性として意識させていく

③特記事項

コロナ禍以降の変化した業界との連携、特別講師、特別授業を模索進展させる。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
4-1	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	3	2	1
4-2	資格取得の向上が図られているか	4	3	2	1
4-3	退学者を減らすための施策は図られているか	4	3	2	1
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

- ・退学者や休学者などの離脱者、その可能性のある学生に対するケア。
- ・卒業後を意識して就職活動を行う、または継続できるようにケアをしていくこと。

②今後の改善方策

- ・企業説明会や社会見学会などを可能な限り実施していく。
- ・学生状況の早期把握と保護者と連携した早期対応や面談を基本とする。

③特記事項

終息していくことが予想されるコロナ禍への対応と正常化へのステップ。

物価上昇と景気悪化予測に伴う経費の増加、求人低下に対する懸念と対応。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
5-1	就職に関する支援体制は整っているか	4	3	2	1
5-2	学生相談などの支援体制はどうか	4	3	2	1
5-3	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	4	3	2	1
5-4	学生の健康管理はどうか	4	3	2	1
5-5	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-6	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-7	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

社会情勢に翻弄される様々な学生に対する適切な対応

②今後の改善方策

- ・高等学校などとの連携を高め、入学前から可能な支援をしていく。
- ・学生への経済的支援のための奨学金、高等教育の修学支援新制度などを積極的に活用する。

③特記事項

昨年度に続き、高等教育の修学支援新制度のための機関要件を満たし認定を受けた。

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
6-1	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	4	3	2	1
6-2	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-3	防災体制は整っているか	4	3	2	1

①課題

教室の改装や設備の最適化など、学習環境のリニューアルを継続していく。

②今後の改善方策

myPC学習（入学時にノートパソコンの支給）を活かした柔軟性のある学習を継続発展させる。

③特記事項

PC設置教室（リース品）の再編は継続中。Wi-fi環境の全館構築が完了し引き続き改善中。

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
7-1	学生募集活動は適正か	4	3	2	1
7-2	学生募集に教育成果は反映されているか	4	3	2	1
7-3	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4	3	2	1
7-4	納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

国の奨学金や高等教育の修学支援新制度への対応、コロナ禍による留学生募集活動停滞からの脱却。

②今後の改善方策

学院の特色や魅力を最適化し、より具体的に周知していく。

③特記事項

出願区分や学院独自の奨学金内容などを充実させて時代に合わせて最適化していく。

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
8-1	中長期的に財務基盤はどうか	4	3	2	1
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4	3	2	1
8-3	会計監査は適正に行われているか	4	3	2	1
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

適正に行われていると判断している。

②今後の改善方策

安定した財務基盤を継続して維持継続していく。

③特記事項

2018年度から引き続きWebにて情報公開（財務情報含む）している。

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
9-2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-3	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4	3	2	1
9-4	自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1

①課題

自己評価や第三者評価を活かした学院運営。

②今後の改善方策

自己評価委員会、学校関係者評価委員会の評価に基づいて改善していく。

③特記事項

継続的に必要とされる情報公開を実践していく。

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
10-1	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4	3	2	1
10-2	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	3	2	1
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

- ・産学協同や社会性の高いイベントを引き続き、充実させていく。
- ・アルバイトなど多忙な学生がどうしたら社会貢献、社会参加できるかなどが課題。

②今後の改善方策

教室内の学習だけではなく、実社会を体感するための社会見学や参画を果たし、保護者の理解も得る

③特記事項

教育機関として様々な非常時の対応・対処について備える。

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
11-1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
11-2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
11-3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

①課題

留学生特有の学費問題や言語能力不足に対するサポートの難しさは引き続き課題である。

②今後の改善方策

留学生についての適切なカリキュラム、取り組み方を研究、試行錯誤していく。

③特記事項

引き続き、留学生教育について経験豊かな学外組織との連携を継続しつつ経験値を高め、専任スタッフの育成にも励み、次年度からは留学生コースの復活に注力していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育目標

変化や進化が必要なもの、普遍的な基礎教育をバランスよく配置する必要があり、時代のニーズに沿ったカリキュラム、教育メニューを構想し続けて次年度移行も提案していく。こども芸術学科における「指定保育士養成施設」の申請結果として指定を受けることが確定した。卒業生とのネットワーク、支援、再就職紹介も重視して卒業生動向や実績の把握に努め、変化の激しい分野だけに保護者を含むステークホルダーへの学院理解や業界理解を高める必要がある。コロナ禍から社会が落ち着きを取り戻し、正常化するまでの対応や今後もあるかもしれない非常事態対応も引き続きの課題である。次年度からは留学生コースの復活を目指して、一定人数の留学生募集と教育にも注力していく。

(2) 財務評価

2022年度の学生募集結果（2023年度の新入生数）は前年度に比べて減少した（昨年比67%）。引き続きコロナ禍の影響もあり、留学生入学者は限定的であった。上記の要素を踏まえた上で財務や学校運営上、大きな支障はなかった。

(3) 一般的評価

中部・中京地区は、産業分野で多くの世界企業が拠点を構え、それに伴って大きな商業圏、経済圏が存在し、それに関わる多数の商業デザイナーやクリエイターが活躍している地域である。本校は名古屋で50年以上の歴史を持ち、この地域においてデザイナーやクリエイターを目指す多くの若者や人々を受け入れ、様々な専門分野で多くのプロを輩出してきた。近年のコロナ禍は2022年度も学校行事などに対する影響はあったものの過去の経験や知見、各所の対策が活かされて、ほぼ全面的に通常授業を実施できた。それにより問題なく必要な授業時間数は確保することができ、学院際などの行事も対策をしつつ実施。海外研修は引き続き実施しなかったものの、北海道研修と東京研修（参加は任意）は無事に実施することができた。2023年度は可能な限り、本来の学院運営を実施できるように注力していく。こども芸術学科においては「指定保育士養成施設」の指定を受けたことによって次年度より当学院で保育士国家資格の取得が可能となった（これまでは豊岡短期大学通信教育部を併修し対応）。それにより2023年度から授業時間の変更や必要な教授内容の再編も行われる。

◎補足：新型コロナウイルス（COVID-19）感染に関する2022年度の報告

学院全体の運営とスケジュールに与えた主な影響は上記の通り。在学生や講師におけるPCR検査陽性報告は十数名でたものの、すべては家庭内や外部での感染であると確認され、当人やご家族も大禍なく回復に至ったケースのみであった。結果として、学院内感染やクラスター感染は発生することなく過ごすことができた。